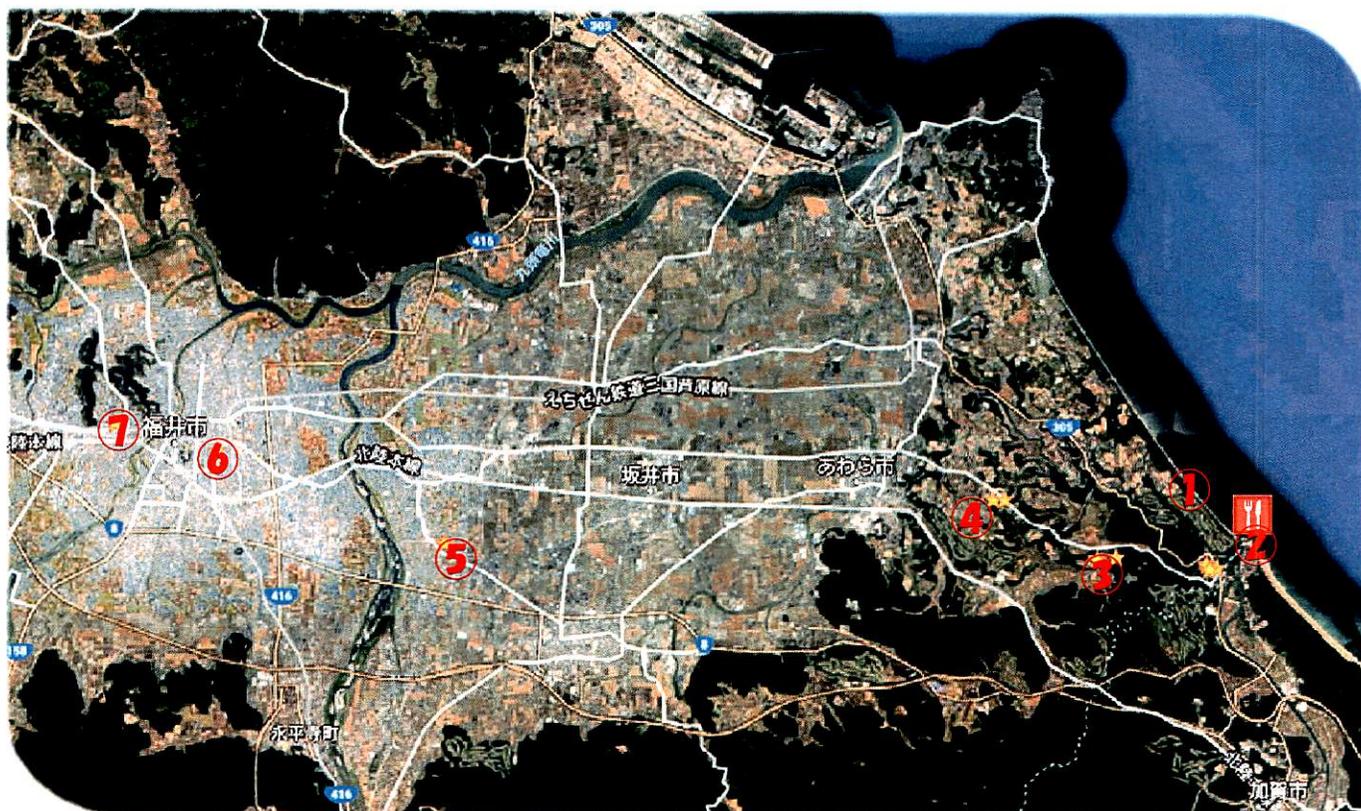


正尊寺仏教壮年会研修旅行

～吉崎御坊と越前御旧跡を尋ねて～



日程表 平成29年7月5日(水)

正尊寺 (7:00出発) → 関ヶ原IC → 加賀IC →

①吉崎御坊 → ②蓮如上人記念館(昼食) → ③細呂木:のこぎい坂

→ ④椽威谷 → ⑤黄楊の堂 → ⑥福井別院 →

⑦専照寺 → 福井IC → 関ヶ原IC → 正尊寺

吉崎御坊 (よしさきごぼう)



① 吉崎西別院 (よしさきべついん) あわら市吉崎 1-2 0 1 TEL 0776-75-1903

延享3年(1746)に東別院より1年早く建立、もともと大坊主分の興宗寺(現：福井別院隣)門徒大家彦左衛門が蓮如上人退去のあと山下道場としてあったが、別院建立にあたり西念寺(現：吉崎寺)を賜り退去した。境内に中宗堂が建てられ「お形見の御影」が安置されていた。

念力門：天正19年(1591)豊臣秀吉が西本願寺に寄進したもので元治元年(186



よって命名された。

4)「蛤御門の戦い」の時、兵火から本願寺の堂宇を守った由来により「火消し門：天狗門」ともよばれた名高い門で、昭和24年西本願寺より御下附百余名の信徒によって京都から250km16台の荷車で念仏のかけ声とともに運ばれ、勝如上人





②願慶寺(がんけいじ) 福井県あわら市吉崎 1-3 0 2 TEL 0776-75-1956

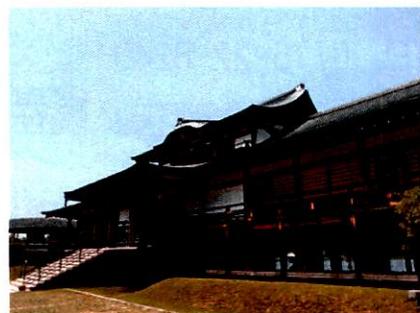


文明7年(1475)8月21日、蓮如上人吉崎退去のあり直参吉崎道場に任せられ、その道場が願慶寺と寺号公称しお東の末寺となる。江戸後期本山の本末制度が変わり、お東は別院と願慶寺を分離し現在に至る。

願慶寺には「嫁威肉付の面よめおどしにくづき」があり、住職が語り部として謂われ因縁を通し布教伝道されている。



③蓮如上人記念館 福井県あわら市吉崎1-901 TEL 0776-75-2200



東本願寺第24代門主の次男、大谷暢順師が1960年代に大谷派を離脱し本願寺文化興隆財団(京都東山浄苑)として分派した。

記念館はこの財団が平成10年に建立、蓮如上人御真筆名号を多数所蔵、シアタールームでの映像紹介、吉崎の民話：七不思議を展示しており「七不思議堂」

は、国の有形登録文化財(建造物)に登録されています。

昼食はこの記念館の喫茶ホールでとります。

③のこぎり坂 あわら市細呂木

親鸞聖人35歳の時、流刑で京都から越後に向かわれる途中、北陸の随所で布教をされました、中でも越前では多くの方が聞き求めるようになり、越後への旅の同行をしたそうです。

細呂木は、越前と加賀の境にあたり、街道の「のこぎり坂」と言われる急峻な坂にさしかかれた時、親鸞聖人が振り返れば、そこには「歩きながらでも法話を聞かせていただきたい」とついてきた人たちがいました。



音にきく のこぎり坂にひきわかれ

身の行くすえは ところ細呂木

と、別れを悲しむ同行に、親鸞聖人は一首の歌を詠まれました。

④嫁威谷(よめおとし) あわら市柿原47-122



「肉付の面」伝説の姑が鬼になりすまして嫁を脅した場所が“嫁威”という地名になって現在も残っている。姑がつけた面はこの八幡神社に奉納されていた物を被ったとも言われている。



⑤黄楊の堂(つげのどう) 坂井市春江町寄安 14-1-1



親鸞聖人が越後に配流のおり、寄安の後家の長者宅に滞留された。長者は、聖人の教えは証がないのでわからないというので、聖人は、菓子にそえて出された黄楊のようじを示し、『わが法来世に盛んならば、この黄楊は、根を生ずるであろう。』と行って土にさした。

すると、この黄楊は一夜のうちに、根が出て葉が茂ったという御旧跡の地。

⑥福井別院 福井市松本4丁目9-2 1 TEL 0776-22-8249

昭和20年福井空襲ですべてを消失、昭和23年福井震災で仮本堂を焼失、現在の本堂は昭和38年に再建。

⑦専照寺(せんしょうじ) 福井市みのり2丁目3-7 TEL 0776-36-0229

真宗十派の一、真宗三門徒派本山今より約700年前の正応3年(1290)、親鸞聖人の法脈を継承する開基・如導上人が仏法興隆のため、現在の福井市大町の地に一字を建立、寺号を専修寺と称したところからはじまります。